

おかやまコープ 暮らしをつくる Vol.13

行政と連携して推進

食育

おかやまコープは地産地消や産直を推進、耕畜連携や循環型農業を応援し、県内産の卵や牛乳・米など暮らしに身近な商品の利用を通じ、生産者と消費者が連携しての地域農業活性化や環境保全などにも取り組んでいる。また、家庭のEサとして飼料用米・飼料用稲(WCS)の活用を力を入れ、食料自給率向上を推進している。さらに行政と連携し、子どもたちに料理や農作業を通じて食の大切さを教える食育活動にも取り組んでいる。今回は、これらおかやまコープが進めている食育の活動と食料自給率向上の取り組みについての話題を紹介する。



朝食の大切さを学ぶ企画でサンドイッチを作る児童ら

岡山県保健福祉部 健康推進課健康づくり班 焔硝岩 政樹 主幹

岡山県では、「岡山県食の安全・食育推進計画」を策定し、「食を通じた健康な人づくり、地域づくり」をスローガンに、①人と人をつなぐ、食を通じた家族や友人との絆等、②健康な体をつくる(栄養バランスのとれた朝食を毎日食べる等)、③豊かな心を育む(いただきます等)の3つの柱を基本に食育活動に取り組んでいます。

食育は、私たち行政と県民の皆さんとおかやまコープをはじめとする関係団体などと連携して取り組むことが大切です。皆さんも一緒に岡山県の食育を盛り上げていきましょう。

集まった朝食レシピの一例

わが家の簡単バランス朝ごはん

＜材料＞

- 炊きたてごはん
- もずく三杯酢
- サラダえび

炊きたてごはんにもずくを混ぜ、サラダえびをのせるだけ。簡単に豪華な一品です。

バナナフリッター

＜材料＞

- バナナ
- てんぷら粉orホットケーキミックス

バナナに天ぷら粉かホットケーキミックスをつけて、油で揚げます。

とて8月26日、倉敷市で小学生と保護者が朝食の大切さを学ぶ企画「作ってみよう 学んでみよう 朝ごはん」を開催。41人の参加者がサンドイッチ作りを通じて朝食の大切さを学んだ。参加した倉敷市の小学6年・川上唯奈さんは「勉強したことを友達にも教えてあげたい。家でも朝ごはんを作ってみよう」と話していた。

このほか、同月31日には中国四国農政局が呼び掛ける「農林漁業の体験を通じて食と農業への関心を深める」教育フェスティバルの協賛事業として、瀬戸内市でキャベツの植え付けを実施。約40人が用意されたキャベツの苗を一本一本丁寧に植え付けていた。母親と一緒に参加した岡山市東区の小学2年・木下知優さんは「自分の作ったキャベツを早く食べてみたい」と話していた。

ほかにも、通信型食育サポートプログラム「たべる*たいて*キッズクラブ」に2007年から取り組んでおり、これまでに5歳から小学6年生までの子どもと組んでおり、バランスよく食事をとることの大切さを学んだ。

食育 や 食料自給率向上 を推進

飼料用米・稲って どんなもの?

飼料用米(WCS=ホルクロップサイレージ)も水田の有効利用ができる点や連作障害が少ない点、牛がよく食べる点などがメリット。輸入飼料の高騰で国産飼料との価格差が縮まり、価格競争力も期待できるため注目が高まっている。

飼料用米は、国が栽培を促している新規需要米の一つ。円安で価格が上昇している輸入飼料の代替になるほか、水田の有効活用や食料自給率向上といった利点がある。また、万が一の食料難の際には主食用に容易に作付けを変更できる点がメリットで、食料の安全保障上の効果も期待されている。

地産地消や循環型農業

世界的な人口増加の影響で将来の食料不足が懸念されている。穀物の国際価格の上昇傾向により、日本では飼料価格の高騰の問題も深刻化している。そこで問題解決の一助として、おかやまコープは輸入飼料に頼らない農業と畜産業の連携(耕畜連携)を推進中だ。

岡山県産の飼料用米や飼料用稲(WCS)を専用飼料として、提携する岡山県内の畜産農家に供給。これによって生産された食品をオリジナルブランドで提供している。

この飼料用米・稲の使用推進は、単なる輸入飼料の代替策ではなく、地域農業・畜産業の活性化や地産地消の推進に資している。初年度の09年度は82ト、10年度は950ト、11年度は1155ト、12年度は1270トと年々増えている。

飼料用米は、10年度から導入された農業者個別所得補償制度で栽培が奨励されている新規需要米の一つ。おかやまコープは県内で生産される飼料用米の約50%、12年度は70%と年々増えている。

岡山県産の飼料用米や飼料用稲(WCS)を専用飼料として、提携する岡山県内の畜産農家に供給。これによって生産された食品をオリジナルブランドで提供している。

この飼料用米・稲の使用推進は、単なる輸入飼料の代替策ではなく、地域農業・畜産業の活性化や地産地消の推進に資している。



飼料用米配合の飼料で育った鶏の「コープ産直こめたまご」は好評

飼料用米・稲

最初は豚の飼料への配合からスタートし、その後、卵用の鶏や牛、肉用鶏へと拡大した。岡山県の水稲耕作面積は5年間で5000ha増加した(全農おかやま調)。飼料用米・稲を使った食品は「コープ産直こめたまご」「コープおかやま豚」「コープおかやま牛」として、「こだわり育ち商品」と「おかやま育ち商品」のダブルブランドで提供。飼料用米を使った「コープ岡山産若鶏」も14年度には「こだわり育ち商品」化される予定だ。

これら産直・地産地消商品に力を入れ、組合員へ安全・安心でおいしい食品を提供することで、地域経済の発展に貢献する試みをおかやまコープは9年から強化している。飼料用米・稲の活用も、より「安全・安心」を組合員に提供するための方策の一つ。生産者の顔や飼料など生産環境が見える商品

中国四国農政局 生産部畜産課 飛瀬 勲 課長補佐

国は、食料・農業・農村基本計画により、平成32年度のカロリーベースでの食料自給率50%(24年度39%)、飼料自給率38%(同26%)を目標としてさまざまな施策を推進しています。

このような中、飼料用米・稲への取り組みは、飼料増産・水田や耕作放棄地の有効活用・耕畜連携の推進による国産飼料に立脚した畜産の確立の観点からも重要となっています。

おかやまコープが推進している地産地消や循環型農業の活動はこのような観点からも非常に重要な取り組みであり、今後とも期待しています。

企画・制作/山陽新聞社広告本部

おかやまコープの HAPPY・FOOD・PARK 2013 入場無料

125のメーカーや産地が勢揃い。試食や販売があるよ!!

日時 9・28(土) 10:00~14:30 [開場 9:50~]

会場 コンベックス岡山 [大展示場・中展示場]

主催 生活協同組合おかやまコープ

後援 岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、倉敷市、早鳥町、中国四国農政局、JA岡山中央会、山陽新聞社、朝日新聞岡山総局、岡山リビング新聞社、産経新聞社、中国新聞岡山支局、毎日新聞岡山支局、読売新聞岡山支局、RSK山陽放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、OHK岡山放送、oniビジョン、FM岡山、レディオモモ、倉敷ケーブルテレビ、FMくらしき

ステージイベント (大展示場)

- 庄内小学校 金管バンド スター☆キッズ
- 山陽女子中学校・高等学校ダンス部
- うらじゃ連「笑輝」

お楽しみ大抽選会 (大展示場ステージ)

午前の部・午後の部の2回開催!
抽選券は、各3,000名総勢70名様に当たります!

- (特賞)おかやまコープの商品券2万円
- (つながりましょう)5,000円相当の商品 など...

※抽選時にその場がない場合、抽選されていても無効になります

ブースイベント (大展示場)

- 「C*コレ」ラリー先着1,000名(コープならではの商品)
- COOP商品の試食と販売
- おかやま育ち・産直商品の試食と販売
- 農水産物・加工品販売
- 健康チェックコーナー(医療生協)
- 東日本大震災被災者支援コーナー
- 餅つき(新庄村・メルヘンプラザ)

飲食コーナー (大展示場・中展示場)

たこめし、いまだこ唐揚げ、焼きそば、讃岐うどん、たこ焼き、華味鳥のやきとり、広島お好み焼き、カレー、ジェラートetc..

子どもひろば (中展示場)

- ミニステージ企画
- 木工教室
- ふあふあ(1回100円)